

## 安全データシート(SDS)

### 1 化学品及び会社情報

化学品の名称:

品名	顕微鏡用浸液
製品名	IMMOIL-F30CC
会社情報	
会社名	オリンパス株式会社
住所	〒163-0914 東京都新宿区西新宿 2-3-1 新宿モノリス
【問合せ先】	お客様相談センター
電話番号	0120-58-0414
推奨用途及び使用上の制限	顕微鏡、油浸系対物レンズ油
整理番号(MSDS No.)	K-MSDS-001-04

### 2 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

引火性液体 区分外

健康に対する有害性

急性毒性(経口) 区分外

皮膚腐食性/刺激性 区分外

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分外

皮膚感作性 区分 1

生殖細胞変異原性 区分外

発がん性 区分外

生殖毒性 区分外

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分 2(腎臓)

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分 2(肝臓、副腎)

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性有害性) 区分 2

水生環境有害性(長期間有害性) 区分 2

GHS ラベル要素

絵表示:



注意喚起語:

警告

危険有害性情報:

アレルギー性皮膚炎反応を起こすおそれ

臓器の障害のおそれ(腎臓)

長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害のおそれ(肝臓、

副腎)  
 長期継続的影響により水生生物に毒性

**注意書き:**

[安全対策]

ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。  
 取扱い後は手をよく洗うこと。  
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
 環境への放出を避けること。

[応急処置]

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。  
 皮膚に付着した場合:多量の水と石鹼で洗うこと。  
 汚染された衣類を脱ぎ、再度使用する場合には洗濯をすること。  
 皮膚刺激または発疹が生じた場合:医師の診断/手当てを受けること。  
 ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師に連絡すること。  
 ばく露またはばく露の懸念がある場合:気分が悪い時は、医師の診断/手当てを受けること。  
 漏出物を回収すること。

[保管]

施錠して保管すること。

[廃棄]

内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

**他の危険有害性:**

**重要な徴候及び想定される非常事態の概要:**

本製品は可燃性であるが容易に着火しない。  
 情報なし

**3 組成及び成分情報**

化学物質・混合物の区別: 混合物  
 組成及び成分情報:

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲(wt%)	化学特性	官報公示整理番号(化審法)	EC No.	CAS 番号
1-フェニル-1-(3,4-ジメチルフェニル)エタン	約 35	C <sub>16</sub> H <sub>18</sub>	(4)-38 (4)-244	228-249-2	6196-95-8
1,4 - ジメチル - 2 - (1 - フェニルエチル)ベンゼン		C <sub>16</sub> H <sub>18</sub>	(4)-38 (4)-244	228-201-0	6165-51-1
1-フェニル-1-(2,4-キシリル)エタン		C <sub>16</sub> H <sub>18</sub>	(4)-38 (4)-244	228-202-6	6165-52-2
エチル(フェニルエチル)ベンゼン		C <sub>16</sub> H <sub>18</sub>	-	265-241-8	64800-83-5
その他(非有害物) 営業秘密であり非公開	約 65	-	-	-	-

分類に寄与する不純物及び安定化添加物: 情報なし

**4 応急措置**

吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合:	気分が悪い時は医師の手当てを受けること。 直ちに皮膚を流水と石鹼で洗浄すること。 皮膚刺激または発疹が生じた場合、医師の診断／手当てを受けること。
眼に入った場合:	清浄な水で15分以上洗眼し、直ちに医師の手当てを受けること。 洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水が行きわたるように洗浄すること。
飲み込んだ場合:	直ちに吐き出させて安静にし、医師の手当てを受けること。 口をすすぐこと。
その他の措置:	情報なし
予想される急性および 遅発性症状:	急性症状:情報なし 遅発性症状:アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
最も重要な兆候症状:	情報なし
応急措置をする者の保護:	二次ばく露を防ぐため、応急措置をする者は適切な保護手袋／保護衣／保護眼鏡／顔面保護具を着用すること。
医師に対する特別な注意事項:	情報なし

---

## 5 火災時の措置

適切な消火剤:	泡消火剤、二酸化炭素、ドライケミカル
使ってはならない消火剤:	消火ホースからの棒状注水は火災を周辺へ広げる可能性がある。
特有の危険有害性:	可燃性:本製品は燃えるが、容易には発火しない。 燃焼により毒性ガス・ヒュームを発生することがある。
特有の消火方法:	危険でなければ火災区域から容器を移動すること。 初期火災の場合、粉末消火剤、二酸化炭素などを用いる。 大火災の場合、泡消火剤などを用いて空気を遮断することが有効である。 周辺設備などに散水し冷却すること。 消火作業は風上から行うこと。
消火を行う者の保護:	消火活動の際は空気呼吸器、化学防護服を着用すること。 密閉された場所で消火作業を行う場合は、自給式呼吸器を着用すること。

---

## 6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具 及び緊急時措置:	風上に留まること。 作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避けること。 密閉された場所に立ち入る前に換気すること。
環境に関する注意事項:	環境中へ放出しないこと。 河川等に排出され、環境に対して影響を起こさないように注意すること。
封じ込め及び浄化の方法 及び機材:	危険でなければ漏れを止めること。 少量の漏出の場合、ウエス、乾燥土、おがくず、砂などに吸収し、密閉できる空容器に回収し、後で廃棄すること。 大量の漏出の場合、盛土で囲って漏出を防止し、液体表面を泡で覆

**二次災害の防止策:** い、できるだけ空容器に回収すること。  
 直ちに裸火、高温物などのすべての発火源を取り除くこと。  
 漏洩物を取り扱うときに用いる全ての設備は接地すること。

## 7 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い:

#### 技術的対策

火花を発生させない工具を使用すること。  
 裸火、静電気放電、電気スパークなどの着火源から遠ざけること。  
 『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項に記載の設備対策を行い、保護具を着用すること。

#### 局所排気・全体換気

『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項に記載の局所排気または全体換気を行うこと。

#### 安全取扱い注意事項

漏出を防止すること。  
 取扱後は、手、顔などをよく洗うこと。  
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
 吸入したり飲み込んだりしないこと。  
 眼や皮膚との接触を避けること。

### 保管:

#### 技術的対策

施錠して保管すること。  
 全ての保管容器は接地し、火花の発生しない工具、装置を使用すること。

#### 保管条件

容器を密閉して換気の良い場所に保管すること。  
 強酸化剤から離して保管すること。

#### 混触危険物質 容器包装材料

強酸化剤  
 情報なし

## 8 ばく露防止及び保護措置

**管理濃度:** 設定なし

### 許容濃度

#### (ばく露限界値、生物学的指標):

日本産業衛生学会

設定なし

ACGIH

設定なし

### 設備対策:

十分な換気がされている、または密閉系でのみ本製品を取り扱うこと。  
 この物質を貯蔵または取扱う作業場所には洗眼器と安全シャワーを設置すること。

### 保護具:

呼吸器保護具

有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器などを着用すること。

手の保護具

耐油性保護手袋を着用すること。

眼の保護具

適切な保護眼鏡を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用すること。

### 衛生対策:

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。

保護具は保護具点検表により定期的に点検すること。

## 9 物理的及び化学的性質

外観	無色透明でやや粘調な液体
(物理化学的状態、形状、色など)	
臭い	僅かな芳香族臭
臭いの閾値	情報なし
pH	情報なし
融点・凝固点	情報なし
沸点、初留点及び沸騰範囲	≥200°C (蒸留範囲)
引火点	126°C
蒸発速度	情報なし
燃焼性	情報なし
燃焼範囲の上限・下限	情報なし
蒸気圧	情報なし
蒸気密度	≥1.0 (空気=1)
比重(密度)	0.9169g/cm <sup>3</sup> (at 15°C)
溶解度	水に対する溶解度:ほとんど不溶
n-オクタノール/水分配係数	情報なし
自然発火温度	392°C
分解温度	情報なし
粘度	173mm <sup>2</sup> /s (at 40°C)
その他の情報	情報なし

## 10 安定性及び反応性

反応性及び化学的安定性	本製品は通常および想定される取扱い、保管条件下では非反応性物 であると考えられる。 本製品は光、熱に対して安定である。
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	高温の表面、火花、裸火などの着火源。
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	情報なし

## 11 有害性情報

(注): 1-フェニル-1-(3,4-ジメチルフェニル)エタン、1,4-ジメチル-2-(1-フェニルエチル)ベンゼン、1-フェニル-1-(2,4-キシリル)エタン、エチル(フェニルエチル)ベンゼンの4物質の混合物を『4物質混合物』と表記する。

急性毒性(経口)	製品データ: Rats LD50>2000mg/kg 成分データ: (4物質混合物) Rats LD50=1940mg/kg (male), 2200mg/kg (female)
急性毒性(経皮)	データなし
急性毒性(吸入:気体)	GHSの定義における液体であるため分類対象外。
急性毒性(吸入:蒸気)	データなし
急性毒性 (吸入:粉じんおよびミスト)	成分データ: (4物質混合物)

皮膚腐食性／刺激性	Rats LC50>1.8g/m <sup>3</sup> 製品データ: ヒトに対して皮膚への継続的または繰り返し接触により、軽度の刺激性がある。 Rabbits: Mild irritating 成分データ: (4物質混合物) Rabbits: Moderate irritating (Primary Irritation Index: 2.8)
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	製品データ: Rabbits: Minimum eye irritation 成分データ: (4物質混合物) Rabbit: Not irritating
呼吸器感作性 皮膚感作性	データなし 製品データ: ヒトに対して継続的または繰り返し皮膚への接触で、ごく軽度のアレルギー性皮膚炎を引き起こす恐れがある。 成分データ: (4物質混合物) モルモットの皮膚感作性試験(Buehler method): 陰性 モルモットの皮膚感作性試験(GMPT: Maximization method): 陽性
生殖細胞変異原性	成分データ: (4物質混合物) In vitro: Ames 試験および染色体異常試験(細菌)で陰性結果。 (1,4 - ジメチル - 2 - (1 - フェニルエチル)ベンゼン) In vitro: Ames 試験および染色体異常試験で陰性結果。
発がん性	成分データ: (4物質混合物) ラットの 24 ヶ月間の試験において発がんおよび発がん助長の作用は認められなかった。
生殖毒性	成分データ: (4物質混合物) マウスにおいて催奇形活性は認められなかった。 (1,4 - ジメチル - 2 - (1 - フェニルエチル)ベンゼン) 動物試験において催奇形作用は認められなかった。
生殖毒性／授乳に対するまたは授乳を介した影響	データなし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	成分データ: (4物質混合物) 頭痛、吐き気、めまいを引き起こす恐れがある。 (1,4 - ジメチル - 2 - (1 - フェニルエチル)ベンゼン) ラットを用いた単回経口投与試験において 1000mg/kg 以上の用量レベルで体重の減少、2000mg/kg 以上の用量レベルで腎臓への影響が認められた。
特定標的臓器毒性	成分データ: (1,4 - ジメチル - 2 - (1 - フェニルエチル)ベンゼン)

(反復ばく露)	生殖/発生毒性スクリーニング試験と組み合わせた反復投与毒性試験で副腎、肝臓に影響が認められた(成体ラットの経口投与試験)。 LOAEL=12.5mg/kg/day (male) LOAEL=200mg/kg/day (female)
吸引性呼吸器有害性	データなし
その他情報	成分データ: (4物質混合物) 1.5mg/kg(2days)の用量で投与したマウスにおける29日後の生物濃縮率: 0.02%

## 12 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性	成分データ
-急性有害性	(1,4 - ジメチル - 2 - (1 - フェニルエチル)ベンゼン) 甲殻類(オオミジンコ) EC50=0.39mg/L/48hr
水生環境有害性	データなし
-長期間有害性	
残留性・分解性	データなし
生体蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	本製品はモントリオール議定書の付属書にリストアップされている成分を含まない。

## 13 廃棄上の注意

残余廃棄物:	廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理すること。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託すること。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避けること。
汚染容器および包装:	容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行うこと。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

## 14 輸送上の注意

国際規制:	
陸上輸送	ADR/RID の規定に従う。
海上輸送	IMO の規定に従う。
航空輸送	ICAO /IATA の規定に従う。
国連番号	3082
国連分類	Class 9

品名	Environmental hazardous substances, liquid, N.O.S.
容器等級	III
海洋汚染物質	該当する
<b>国内規制:</b>	
陸上規制情報	消防法に従う。
海上規制情報	船舶安全法に従う。
航空規制情報	航空法に従う。
<b>輸送時の特定の安全対策 および条件:</b>	輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめること。 危険物および容器が落下、転倒、破損しないように積載すること。 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。 運搬中の事故等により災害が発生した場合は、最寄りの消防機関およびその他の関係機関に通報すること。 重量物を上積みしないこと。
<b>緊急対応時指針番号:</b>	171

---

## 15 適用法令

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	旧第2種、第3種監視化学物質(1,4-ジメチル-2-(1-フェニルエチル)ベンゼン)
労働安全衛生法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
消防法	危険物 第4類第3石油類(非水溶性)
化学物質排出把握管理促進法	非該当
海洋汚染防止法	有害液体物質 Y類物質相当
航空法	その他の有害物件(施行規則第194条)
船舶安全法	有害性物質(危規則第2条第1項)

---

## 16 その他の情報

### 参考文献:

Globally Harmonized System of classification and labeling of chemicals, (4<sup>th</sup> ed., 2009), UN  
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 17<sup>th</sup> edit. UN  
2012 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)  
2012 TLVs and BEIs. (ACGIH)  
<http://monographs.iarc.fr/monoeval/grlist.html>  
JIS Z 7253:2012「GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」  
原材料/製品メーカー MSDS

### 【注意】

記載内容は、現時点で入手出来る資料、情報及び自社情報に基づいて作成しており、以上の情報は新しい知見により改定されることがあります。また、注意事項は通常取扱を対象としたものであって、特殊な取扱いの場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。